



# アクテノン

NO. 114

名古屋市演劇練習館機関紙

## エッセイ



### 「青少年と ミュージカル教育」

高橋早霧

(一般社団法人名古屋市  
青少年ミュージカル代表理事  
脚本・振付・演出家)

今、私にできること、したいことは、この時代を生きる青少年に、エンターテインメントを通して、何か自分の生きる道や糧を見出してもらいたい、未来を見つめる希望の種を見つけてもらうこと。

それは、私に注がれた多大なるご指導やご縁、愛へのご恩返し…ご恩おくりだと携えている。時に、このような時代に、ミュージカル公演を開催することへの葛藤も自己の中で起こるが、だからこそ意義があると信じてやまない。

未だにマスク生活を余儀なくされ、新しい生活様式に慣れて、大声で笑い合う日は愚か、対面で会話を愉しみ食事すらできない子供たち。

仲間と笑い合い、抱き合って喜んだりすること、それ自体を恋しいと思うことすら知らずに成長するだなんて悲しすぎるではないか。

だからこそ、舞台をつくらう!と私は自己の中に光を増大させている。

舞台の上の世界はコロナも争いごともない。想像力を膨らませ五感をフルに活用し、役を通して全力で笑い合い生きることを経験してもらいたいのだ。

やりたいことをやる!そんな「願望」すら忘れては、おしまいなのだから。

そう、これは自分にこそ言い聞かせてやりたい言葉でもある。

仲間と共に歩みを進めていくことで、見通しの立たない世の中にも、自分の生を謳歌する力を自己の中に見出して欲しいと願うばかりだ。

当団体(名古屋市青少年ミュージカル)は2015年に「あいち・名古屋市を活性化するものは地元の青少年の心の成長である」のコンセプトのもとに発足(前身含む)。

以降「ミュージカル教育」の理念を掲げ、青少年一人

ひとりの自己成長と舞台制作に着目して活動を行って来た。

今年は、5/1(日)の第4期生キャストオーディションを皮切りに、毎週日曜の名古屋市演劇練習館(アクテノン)でのリハーサルを重ね、7/28,29の公演(「ダンス・アポン・ア・タイム」昭和 cultura 小劇場)を目指す。

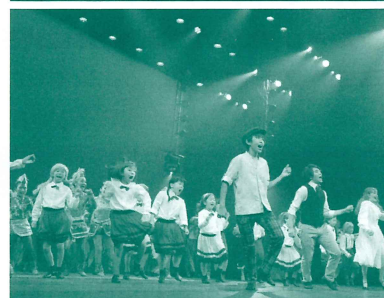
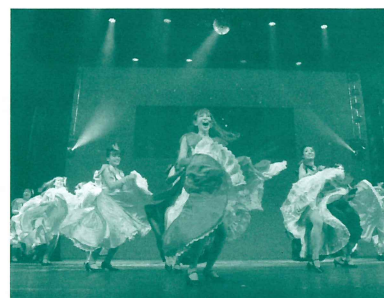
公演を断念せざるを得なかったコロナ禍のこの2年。この観点からも今回の公演は大きな意味を持つことになると確信している。

心のマスクを外した先に、ただひたすらに、光を浴びて、全力で生きる彼らの魂を本番当日、観られることを、私自身、心の底から楽しみにしている。

ふと目を上げれば、桜の木には新緑が宿り、いよいよ今年も夏が来るよと、空が、空気が訴えている。

爽やかに、軽やかにこうしてまた一歩ずつ進み、成長しよう。

これが私であり、夢を描くということだと知る。そしてそれこそが、エンターテインメントを通して私が青少年に伝えていきたいことなのだ。



一般社団法人  
名古屋市青少年ミュージカル公演  
「Bon Voyage～パリの回転木馬～」  
2019年9月  
青少年文化センターアートピアホールにて

※ミュージカル教育(15週間プログラム)について  
公演までのリハーサル期間を舞台制作を通じた自己成長のためのプログラム期間としている。

※合格者の初顔合わせでは、一人ひとりが取り組む公約(自分との約束)を決定し、全員の前で公言(宣誓)するところから15週間かけて本番までのプログラムがスタートしていく。

## トピックス

### 「第2回 名古屋女性演劇賞【ライン】」



花植 厚美 (flower-plant 舞台照明家)

ある日突然【がんばったで賞】をいただきました。

年も明けた1月下旬、小雨降る夕暮れ、海沿いを南下していた時の事です。

傍の携帯電話が鳴り、車をコンビニに停車します。いつもとはどこかしら雰囲気の違い、ゆったりとした口調の高木さん「花植さま、この度、第2回、女性、演劇賞を...受賞されましたっ!」一瞬、ババーン!と、効果音が脳裏に響くかのような演出。「へ?」と、てぬるい反応...その節は失礼致しました。一瞬、記憶が抜けかけておりました。

3月末の授賞式、とても緊張しました。スピーチ時、一度も見れなかったあんちょこ。アップされた画像は、なんだか挙動不審。役者さんって凄い。アーティストって凄い。

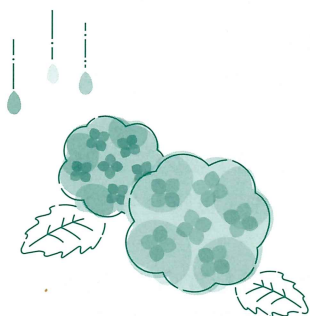
江崎さんが歩いてこられた時代に、私も

途中より、平行して歩いてまいりました。

地図上には、線が沢山あります。国と国を分ける線。その上で生きる生物にもカテゴリーという名の、分別の線引き。私たちを取り巻くコミュニティにも、沢山のボーダーライン。色々な線をくるくると巻きつけて、今があります。絡まった線は根気よく解き、切れそうな線は結び直し、強化し、守り、良い意味でラインを超えて、前に進めたらと、肌で感じます。

生きるために日々、続けてきた仕事。ある日突然、花マル貰いました。自分スタンプラリー、少しずつ刻印を押して、生きたいです。

一読、ありがとうございました。



## アクテノン・シャワー

■ 2022年4月1日より有料貸出し備品が新しくなりました。

[備品の仕様]

● 43インチ液晶モニターディスプレイ

持込パソコン等をHDMI接続可能

● ブルーレイディスクレコーダー

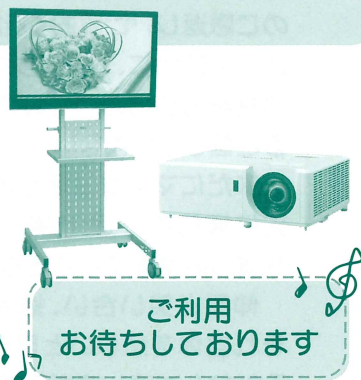
ブルーレイ、DVD、SDの録画再生可能、本体への記録不可

● デジタルビデオカメラ

録画可能ですが本体への記録不可、SDカード等をお持込ください

● 短焦点レーザープロジェクター

4000ルーメン



## アクテノン利用団体紹介

① 発足年 ② 団員数 ③ 主な上演作品/会場 (上演年) ④ 連絡先

### 演劇 4年椿組



名古屋経済大学高蔵高等学校・中学校演劇部の卒業生で結成した演劇ユニット。『Annie』で旗揚げ公演後、『ふたりのロッチ』『続・赤毛のアン』『オズの魔法使い』などを上演。

高蔵演劇部元顧問である神谷茂晴が脚本した作品を椿組が脚色し、音楽は作曲家の位田勉が、振付は古川隆一が手掛けたオリジナルミュージカル作品です。

『椿』の花言葉である『誇り』をもって、子どもから大人まで楽しめる作品をお届けします。

① 2016年 ② 20名

③ 『wizard of OZ ~オズの魔法使い~』/あま市美和文化会館('21年) 『続・赤毛のアン ~アンの青春物語~』/西文化小劇場('20年) 『ふたりのロッチ』/港文化小劇場('19年)

④ 渡辺知佳

HP: [https://www.instagram.com/4\\_tsubaki/?hl=ja](https://www.instagram.com/4_tsubaki/?hl=ja)

E-mail: [4tsubaki.mu@gmail.com](mailto:4tsubaki.mu@gmail.com)

紹介動画はこちら!



編集発行/令和4年5月25日(年4回)

名古屋市中村区稲葉地町1-4-7

TEL 052-413-6631 FAX 052-413-6632

\*この印刷物は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。



施設からの情報をご覧ください!



「友の会」会員募集中!  
<http://www.bunka758.or.jp/>